

だいせつざんのすがお

# 大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

## 壊れる大雪山

東川町民ならどなたもご存知だと思うが、旭岳は以前より1メートル高くなった。実際に背が伸びたわけではなく、測り直したら、高かったことが分かっただけに過ぎないのだが…。

では、もっと昔は今よりも300メートルほど高かったことはご存知だろうか。

ロープウエーで登り、姿見ノ池から地獄谷方向を見てみると、斜面の方向に沿ってバウムクーヘン状の層が観察できる。これは旭岳の成長過程を物語る「柱のキズ」だ。

旭岳は富士型の成層火山で、溶岩を流しながら徐々に高くなっていった。その溶岩が幾重にも重なってできたのがバウムクーヘン状の層というわけ。ところが、すくすくと育っていた旭岳がある日キレた。水蒸気爆発を起こして、山の西側を吹き飛ばしてしまったのだ。こうして背が低くなったのがいまの旭岳だ。

火山も人と同じように成長もすれば壊れることもある。溶岩を流す噴火が山を造り、水蒸気爆発は山を壊す。

同じ火山から出た噴出物でも、溶岩は固く風化しにくい

火砕流の噴出物や火山灰は柔らかく、雨風に削られやすい。東川の町中からは見えないが、旭岳から白雲岳にかけての山肌には、幾筋もの深い溝が刻まれている。火山灰などの柔らかい火山噴出物の斜面が、風雨や雪解け水に削られて出来たものだ。残雪期に白雲岳の山頂に登ってこの斜面を眺めると、溝に融け残った残雪と、尾根上を被うハイマツ帯とがきれいなゼブラ模様を描いているのが見える。

刻まれた溝が深まっていくのは山が壊れる過程なのだが、自然の摂理によって出来た造形は美しい。その一方で、人が刻んだ溝が醜く山肌を切り裂いている場所もある。登山道だ。人工的につけられた道が、雪解け水や雨水の排水路となり、深い溝になっているのは以前から指摘されているとおりだが、登山道から派生する副次的な溝についてはあまり知られていない。

冬の間じゅう外気にさらされる風衝（ふうしょう）地の地下には、夏も凍ったままの永久凍土が形成される。ここに登山道をつけると、溝になった道に吹きだまった雪が断熱材になり、温かい環境ができて、永久凍土を溶かしてしまう。

溶けた永久凍土は斜面方向に流れ下って、新たな溝を作る。人がつけた登山道がきっかけになって自然環境が局所的に変えられた結果、山が壊れていくことになったわけだ。

人が変えてしまった環境は、早い段階で手を打てば、元に戻すことも出来る。回復不能になる前に、行政に対応を検討していただきたいところだ。

山樂舎BEAR代表 佐久間 弘

## 俳句

乳ぜりの子を背負いてや春の宵

永き日を語りて笑みし友嬉し

日の永しボール蹴る子の光る声

末の子の卒業証書残りけり

春泥にまた走り寄る下校の子

嘘ひとつのみこんで雪消えにけり

冴返る空に届けし鎮魂歌

水音は草の底より日の永き

永き日のけふの万歩に心足る

今日見ずば明日は無きやも桜花

悲に耐えしリリちゃん犬の骨焼く日永かな

日永かな下校の児等の水たまり

永き日や欠伸で締める毛繕ひ



杉山りつ

山口佐知子

高瀬潤

石澤清宏

澤田久美子

松山蓉子

三島智

秋山深雪

長谷川きみゑ

小林露葉

青野公花

杉山ひろのり

徳光吐苦